

中五島高「域生デー」住民らと交流

新上五島

新上五島町宿ノ浦郷、県立中五島高(川原智司校長、51人)は6月29日、「域生デー」を初めて開き、生徒と保護者や同窓会、地域の

人ら約50人がソフトバレーボールの試合や意見交換会

で交流した。昨年4月、県立学校としては初のコミュニティ・スクール(学校運営協議会制度)として認定を受けた同校は「地域を支え、地域に愛され、地域と共にある学

校」を目指している。生徒が名付けたキャッチフレーズは「域生をつないでいく、私たちの手」。域生デーは、保護者や地域住民で構成する同校学校運営協議会から「直接生徒らと触れ合

地域の自慢語り合い、ソフトバレーで真剣勝負



地域の人と意見交換する生徒
＝中五島高体育館 (同校提供)



ソフトバレーボールで競り合う中五島高の教職員・保護者チーム(ネット左側)と3年チーム
＝同校体育館

い、意見を交わしたい」という要望があったことから実施した。ソフトバレーボールでは生徒チームと、保護者・教職員、地域住民でつくるチームが対戦。好プレー、珍プレーに、参加者から歓声や笑い声が上がった。

意見交換会のテーマは「新上五島町の『私のイチ押し』を教えてください」。発表された意見では、五島うどんや鮮魚などのグルメや、教会や夕景スポット、海、星空などの風景が挙げられた。参加者は、身近に自慢できるものが町内に数多くあると再認識した。

同校3年の荒木葉月さん(17)は「ソフトバレーボールは大人と真剣に戦え、楽しかった。意見交換会では、語り合っているところを見つけておもうと、柔軟な姿勢を学んだ」と話した。

(平田有子)